

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授 後藤 敏文	3	火	3
◆ 講義題目	ヴェーダ文献のことばと思想「リグヴェーダからブラーフマナへ」				
◆ 到達目標	インド最古の宗教文献群 Veda に見られる当時の「世界理解の学」を原テキストに即して正確に把握すべく努める。神々と人間との関係、死後の問題、「輪廻」と「業」の出発点などを確認し、合わせて、我々の知識の源泉について、批判的考察の契機とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の『リグヴェーダ』(B.C. 1200頃編集)から「ブラーフマナ」と呼ばれる祭式文献群(B.C. 600頃に懸けて順次成立)までを対象に解説する。原資料の姿を知ってもらえるよう、翻訳例を用意する：1 インド学、インド哲学・文献学、「南アジア」；2 インダス文明と「インド」；3-4 アーリア人とその言語文化の背景、インドヨーロッパ語族；5 リグヴェーダ「天地の歌」解説；6 インドラ讃歌解説；7-8 Deva と Asura、ヴァルウナ讃歌解説；9-10 創造讃歌、プルシャ(「人」)の歌；11 アタルヴァヴェーダ紹介と解説；12 ヤジュルヴェーダ・サンヒターとヴェーダ祭式、ヴェーダ文献群の構成；13 ブラーフマナ文献の祭式解釈学；14-15 ブラーフマナの神話。</p>				
◇ 成績評価の方法	配布コピーに基づいてレポートを提出してもらい、これによって成績をつける(100%)。詳しくは参考文献一覧とともに授業中に指示する。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。				
その他：既成の概説書にない内容が中心となるので、授業内容と配布資料とに基づきレポートを提出すること。受講歓迎。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	准教授 吉水 清孝	4	水	3
◆ 講義題目	インド哲学とヒンドゥー教				
◆ 到達目標	西暦紀元前後からイスラーム教徒による北インド支配までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、バラモン教学・仏教哲学・ヒンドゥー教の三つを軸にして理解すること。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>初期中世インドに成立した各学派における存在と認識、および倫理と宗教の面での中心思想を、学派相互の影響関係と共に以下の順序で解説する。01 時代背景の変遷：古代から中世へ、02 バラモン教学(1)：二元論(サーンクヤ)と瞑想(ヨーガ)、03 バラモン教学(2)：言語の構成要素(文法学)、04 バラモン教学(3)：語の認識から文の認識へ(文法学・ミーマーンサー)、05 バラモン教学(4)：聖典論と社会意識(ミーマーンサー・法典註釈)、06 バラモン教学(5)：ウパニシャッド解釈学と一元論(ヴェーダーンタ)、07 仏教の僧院と国際交流、08 仏教知識論(1)：認識論と論理学の基礎、09 仏教知識論(2)：論理学の応用、10 ヒンドゥー教(1)：ヴィシュヌ神とその化身、11 ヒンドゥー教(2)：シヴァ神と女神たち、12 ヒンドゥー教(3)：ヴィシュヌ教の神学、13-15 ヒンドゥー教(4)：シヴァ教の神学。</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 [70%]・(○) 出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと、参考書は授業中に指示する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
パ リ 語	2	教授 後 藤 敏 文	3	水	5
◆ 講義題目	パーリ語入門				
◆ 到達目標	サンスクリットの知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。				
◆ 授業内容・目的・方法	サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基本事項を学ぶ。Geiger, A Pali Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pali Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方による（100%）。				
◇ 教科書・参考書	Geiger - Norman, A Pali Grammar（共同購入する）、D. Anderson, A Pali Reader（大学に必要部数が揃っているが、自分で持っても後まで役立つ）。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する				
その他： サンスクリット語の初等知識を前提とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
パ リ 語	2	教授 後 藤 敏 文	4	水	5
◆ 講義題目	パーリ語講読				
◆ 到達目標	前期に習得した能力を基に、比較的明晰な原典を選び講読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	文法事項、シンタクス、仏教用語などについて、繰り返し復習確認をしながら、言語と内容の両面を大切にしてい取り組む。出席者の興味を考慮して、スッタニパータ、マハーパリニッバーナスutta、アッサラヤーナスutta、カシバラッドヴァージャのいずれかを取り上げる。				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方による（100%）。				
◇ 教科書・参考書	前期の授業に準ずる。さらに、CPD、PTCの活用に心がける。先端的な研究文献にも触れるべく努める。				
その他： サンスクリット語の初等知識を前提とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チベット語	2	助教 菊谷竜太	3	木	2
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅰ</p> <p>◆ 到達目標 (1) チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。 (2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを、文の構造に注目し、自ら吟味することで、解釈力の養成を計る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 藤田光寛：『古典チベット語文法』(非売品；インド学研究室に備え付けがある)</p> <p>その他：教科書は研究室備え付けのものを各自コピーし、講義に臨むこと。また、サンスクリット語初級文法の既習者であることが望ましい。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チベット語	2	助教 菊谷竜太	4	木	2
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅱ</p> <p>◆ 到達目標 古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット人学僧 Taranatha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。第36章冒頭から読み始める予定。 チベット人プロパーの手による文章を相手に、辞書、文法書、各種インデックスの利用法の訓練をも兼ねた十分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 Taranatha：『インド仏教史』(コピーを配布する)</p> <p>その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。また使用すべき辞書については授業の中で紹介する。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 基 礎 演 習	2	准教授 吉水清孝	3	水	4
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献入門				
◆ 到達目標	サンスクリット語によるヒンドゥー教の基本文献を読むことにより、初等文法で学んだサンスクリット語の活用と構文に習熟すると共に、デーヴァナーガリー文字と宗教文献の語彙を習得し、さらにヒンドゥー教の基本的思考法を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Bhagavadgītā (『神の歌』岩波文庫に和訳あり) は、ヴィシュヌ神の化身であるクリシュナと人間アルジュナの対話篇であり、現代においてもヒンドゥー教徒の代表的な聖典である。今学期はその第7章から第10章までを中心に講読をする。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。第1回：Bhagavadgītāの成立；第2回：XI、vv.1-10 天眼とクリシュナの変貌；第3回：XI、vv.11-20 ヴィシュヌの身体；第4回：XI、vv.21-30 神への帰滅；第5回：XI、vv.31-40 時間としての神；第6回：XI、vv.41-55 人の姿をとる神；第7回：XII、vv.1-10 クリシュナへの信仰；第8回：XII、vv.11-20 神に愛しい者；第9回：XIII、vv.1-10 土地 (= 身体) を知る者；第10回：XIII、vv.11-20 知の対象となるブラフマン；第11回：XIII、vv.21-34 土地 (= 身体) の正しい見方；第12回：XIV、vv.1-10 根本原質の3要素；第13回：XIV、vv.11-27 3要素の超越；第14回：XV、vv.1-10 不滅の宇宙樹；第15回：XV、vv.11-20 体内に入る神。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	准教授 吉水清孝	5	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読 (1)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>『マハーバーラタ』は、王家の争いに端を発する大戦争を描き、そのなかに社会倫理と宗教の全体にわたる教説を盛り込んだ世界最大の大叙事詩である。今学期は、全軍を失ったカウラヴァ百王子の長子ドゥルヨーダナが、武人の名誉をかけてパンドヴァ5王子のビーマと繰り広げる、棍棒による決戦の前半部を講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	准教授 吉水清孝	6	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読 (2)				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	今学期は、前期に引き続き、『マハーバーラタ』戦争の終局で、カウラヴァ全軍を失ったドゥルヨーダナとビーマとが繰り広げる棍棒による決戦の後半部で、実はヴィシュヌの化身であるクリシュナが介入する場面を講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	非常勤講師 吉水千鶴子	集中 (5)		
◆ 講義題目	中観思想研究				
◆ 到達目標	インド・チベットのの中観思想の根幹である「中」の思想を理解する。『中論』18章を註釈書と合わせて講読し、「中」「離辺」の思想を論理との関連で考察する。				
◆ 授業内容・目的・方法	ナーガールジュナに始まり、チベット仏教後伝初期 (13世紀) に到るまでの中観思想史を、主に論理学との融合の過程として概観する。その上で「論理を超えた」中観思想の目指したところとは何か、それが歴史の中でどのように再考されてきたかを、『中論』18章と註釈書の講読を通して考察する。とくに従来知られていなかった11～12世紀のチベット語写本の註釈書をあわせて見ることにより、筆記体写本の読み方と註釈のスタイルを学び、さらにインドからチベットへどのように中観思想が継承されていったのか、その展開を理解する。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [50%] (○) その他 (平常点：文献講読時の取り組み方など) [50%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。文献講読に使用するテキストについては、授業に際して指示する。				
その他： なし					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	非常勤 講師 久 間 泰 賢	集 中 (6)		
◆ 講義題目	後期インド仏教文献講読				
◆ 到達目標	(1) 後期インド仏教における思想的状況についての基本的な知識を獲得する。 (2) 実際にテキストを講読することを通じて、後期インド仏教についての理解を深める。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>後期インド仏教の(とりわけヴィクラマシーラ寺院とそこで活躍した学僧をめぐる)思想的状況について概説し、基本的知識を提供する。また、サンスクリット語で書かれた後期インド仏教文献(ヴィクラマシーラ寺院の学僧で、10-11世紀に活躍したジュニャーナシュリーミトラの著作)を実際に講読することを通じて、授業テーマについての理解を深めることを目指す。</p> <p>1～2回目：後期インド仏教史序説 3～4回目：ヴィクラマシーラ寺院をめぐる思想的状況について 5～6回目：同寺院の学僧ジュニャーナシュリーミトラの著作と思想的傾向について 7～14回目：ジュニャーナシュリーミトラの著作の講読(いくつか主要な箇所を抜粋して用いる) 15回目：総括</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [50%] (○) その他(平常点：文献講読時の取り組み方など) [50%]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。文献講読に使用するテキストについては、授業に際して指示する。				
その他：なし					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 後 藤 敏 文	5	月	4
◆ 講義題目	サンスクリット文学選				
◆ 到達目標	サンスクリット文学に関する文献学的・言語的訓練を行う。思想史的背景への理解にも努める。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>インド美文学を代表するカーリダーサの「シャクンタラー姫の物語-想起の場-」を題材とする。第一幕から始める。毎回出席者全員に訳してもらい、合理的に予習と復習とを心がけること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方による。				
◇ 教科書・参考書	M. Williams 版に基づく。文法、シンタクスの基本に留意すべく参考書を利用する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 後藤 敏文	6	月	4
◆ 講義題目	ブラーフマナ選				
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、シンタクス）を点検しつつ、古インドアーリヤ語の習得に努める。祭式を巡るインド思想史の展開にも留意し、文献学、ヴェーダ学の基礎知識、方法を学ぶ。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>「[ブルーラヴァスとウルヴァシー]」の神話を精密に検討する。はじめに、『シャタパタ・ブラーフマナ』の伝承を『リグヴェーダ』X 95を検討しながら取り扱う。余裕があれば、パウダーヤナ版、ヴァードゥーラ版をも取り上げる。古インドアーリヤ語散文文献に関する研究能力を養い、神話や祭式の意義付けの展開を追う。毎回出席者全員に順番に訳してもらい、予習が十分できない場合にも出席してノートを取り、復習に時間を懸けること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。Delbrück, Mayrhofer, Goto (Morphology) を座右に置くこと。Goto, Fs.Narten、および、神子上記念論集参照。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	准教授 吉水 清孝	5	火	3
◆ 講義題目	インド哲学文献研究 (1)				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヒンドゥー法典を代表する『マヌ法典』には数多くの註釈が書かれた。パールチ（7世紀ごろ）による現存最古の註釈は、前半部分が散逸し後半が現存するのみであるが、最も浩瀚な註釈の作者メーダーティティ（9世紀）により度々引用されている。今学期は、因果の応報としての輪廻の帰趨を説く第12章への註釈前半を扱う。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	准教授 吉 水 清 孝	6	火	3
◆ 講義題目	インド哲学文献研究 (2)				
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>パールチ（7世紀ごろ）による現存最古の『マヌ法典』註釈のうち、今学期は、前期に引き続き第12章への註釈の後半を講読する。この註釈は「最高我」(paramātman) の教説と知行併合論を説きヴェーダーンタ思想史を考える上で重要である。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%]・ <input type="checkbox"/> リポート [%]・ <input type="checkbox"/> 出席 [30%] <input type="checkbox"/> その他（授業での貢献度）[70%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					